

2/16

起案紙第一號

明治三十三年九月十四日起案
抄印
九月廿廿發符

提案

艦政本部長
拍木

大臣

次官



參事官

副官



第四部



第三部



會計課



軍務局長



局長



訓令案

口十二百九十九月二十

横濱長官

大臣

發送番號

官房第三一七九

海軍

1134

海軍

軍艦薩摩試乗轉斗

軍艦薩摩、後佳試験、特別紙

方法依り施行スベシ

右訓令ス

別紙書通添

(3)

理

タルビシ機関ヲ備フル船ト比較セシムルガ為メ

不達修試験検査規則第七十七

條第一項ニアル後佳試験ヲ指

定シタルニアリ

後進力試験方策

一、一定ノ速力ニテ前進中直ニ機械ヲ逆轉シ後
進回轉ヲ蒸汽圧ノ保テ得ル範圍ニ於テ最
高ニ調整スルコト

但レ此時汽薩室ニ於テハ前進中ト同一ノ焚方
ヲ保持スルヲ要ス

二、試験ハ左記各場合ニ於テ執行ス

前進 十海里

全殘存力 1/5

全 2/5

全 3/5

全 4/5

海軍

三、各試験ニ於テ凡ノ諸項目ヲ計測スベシ

(一) 發令ヨリ右進ヲ始ムル迄ノ時間

(二) 發令ヨリ所定停止スル迄ノ

(三) 後進カ一定シタヤノ後進

時間

距離

回数

実効力

(3)

廢榮

第四部長

艦政本部

會議課長

二十二年九月

艦政本部長

横鎮長官

軍艦建造試験運轉科

七十七条第四項 試験検査規則 第

七十七条第四項 試験検査規則 第

試験検査執行中規定 全方試

航時開外 於之機機 登動 停

中々後進試乗ヲ行ハベシ

リ有^ルニ在^ルハ^ハタル^ルボシ^シ船^ト比^シ較^スル^ル乃

持^テ別^ニ託^ス通^リ方^法ニ^テ施^ス行^フ規

度

右^ノ照^會ニ

別^ニ一^ニ書^ス係

(3)

横廠機第五四六號二

昭和四十二年九月十日

陸軍省機務部長

山本海軍機務部長

第 一 部 長

郵 買

軍艦薩摩特種試験施行ノ件

機務四部四九〇號 照会 軍艦薩摩特種試験運轉ノ

際特種試験施行ノ件 為却ニ於テハ 照会 機務

部 表向キ 為却 照会 機務 為却

右回 為却

機務四部 機

二

機

海 軍 監 四

9-13

海軍

第四部長

（赤松）

（赤松）

（赤松）

（赤松）

（伊藤）

明治四十二年九月八日

海軍省第四部長

藤井横二 造船部長宛

薩摩 試運轉 件

タニヒシ汽機、能力ト比較スルタメ軍艦薩摩
試運轉之際、別紙、特種試験ヲ施行致シ度
候ニ就テハ貴部、成都合兼知致度
右照會ス

（終）

海軍省第四部長

後進力試験方案

一 一定ノ速力ニテ前進中直ニ概機ヲ逆轉シ後進回轉ヲ蓋流圧ノ保ケ得ル範囲ニ於テ最高ニ調整スルコト

但レ此所流圧空ニ於テハ前進中ト令一ノ焚方ヲ保持スルヲ要ス
 二 試験ハ九記各場合ニ於テ執行ス

前進 十海里

令 全カ 1/5

令 2/5

令 3/5

令 自然通風全カ

三、各試験に於て左ノ諸項目ヲ計測スル

(一) 命令ヲ右進ヲ始ム迄ノ時間

(二) 命令ヲ繼續ノ停止スル迄ノ時間

(三) 後進力一定シタル中ノ後進

四轉數	五轉數	六轉數	七轉數	八轉數	九轉數	十轉數	十一轉數	十二轉數	十三轉數	十四轉數	十五轉數	十六轉數	十七轉數	十八轉數	十九轉數	二十轉數
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

電 報 報 信 會 第 第

松本 經政本部

軍務部

受信人住所氏名

局 報	着 報	局 發	第	友
取扱者	受 部	付 午 後 六 時 分	一	
軍 部	時 分	字 分 日	局	報

受信人住所氏名 (Handwritten address)

七	時	上	討	運	野	ノ	方	ノ	年	前
一	力	年	年	年	年	年	年	年	年	年
百	十九	十八	十七	十六	十五	十四	卅	廿	十	

番 號	紙 數	名 氏 所 居 人 信 發
一	第 五 號	平岡 毛
七	七	行動簿濟
印 附 日 信 着		

り ぎ り ぎ

浅

の

二月廿二日

二月廿二日卯の刻

横濱賀



行動簿濟

電送

村中佐

梅

山利木少佐

今朝(八)潜水艇連力試験、為、出港ス

軍務局



局員



小林



梅

海軍

1145

第八潜水艇

明治四十二年二月廿六日午 四時四十分受

海軍省

横須賀鎮守府電報用紙

試運轉員今濟結果良好機力ニテ
 十二海里三節英國於テ試
 運轉ノ片ヨリ約半節増セリ電力
 節六本日授後ヨリハハハ等若
 大臣次官兩閣下ニシカハベク御意
 言ハクフ明日午前十時十五分頃係
 証機鞠士ニ名ヲ供ナイ官房ニ御
 伺イテシカハベク御願ス

山梨秘書官殿 奉殿 村松

部局名	接受月日
大臣官房	三月廿五日
軍務局	三月廿五日
人事局	
醫務局	
經理局	
司法局	
艦政本部	三月廿五日
教育本部	
臨時建築部	
水路部	
軍令部	

軍令部	水陸部	陸海軍部	教育本部	陸軍本部	司法局	逓理局	警務局	人事局	軍務局	大臣官房	部局名
				大 陸 軍 部					二 五 五 五 五		接受月日
				陸 軍 部					二 五 五 五 五	三 三 三 三 三	署名

1147

横須賀府軍電話記事

急

明治四十一年三月九日午後三時

分受 海軍省

第九潜水艇試運轉好結果
 力三十二百九十三一時間平均
 回轉三百九十九六電力三九
 潜水艇上雷艇射供良好
 第一八ヨリ七サレ今吾接演

工部 松村中造

山梨...

部局名	接受月日	發送月日
大臣官房		三月九日
軍務局	三月九日	
人事局		
醫務局		
經理局		
司法局		
艦政本部	三月九日	
教育本部		
臨時建築部		
水路部		
軍令部	三月九日	

三時印刷
 三二

5

軍令部	水路部	臨時建艦部	教育本部	艦政本部	司法局	経理局	醫務局	人事局	軍務局	大臣官房	部局名	接受月日	發送月日
三九				三九					三九 三九 三九				三九 三九 三九

三九
三九
三九

1149

軍務局

指し送り

寫

局員

電話

三月九日
右五時受

小松

田

田

野

海

軍

第九潜水艇試運轉好結果機力テ十二ノット三百九十三、一時開平
均回転三九九、六電力ニテ九ノット零七、潜行ト小雷発射共ニ
良好何レモ第八ヨリマサレリ今要授濟

工廠 松村中佐

山梨秘書官殿

粘谷納

1150

9-9

供覽

司令書

參謀長印

參謀

二潛機密第一一號

副官

三月三日送

四十二年二月二十六日 於吳

海軍大臣 野崎齋藤 實收

艦務部

第四編

會計課

軍務局

14
局員

第六潜水艇艦隊 解放機務一件

昨四十一號 十月下旬より 本年一月に至る間 兵員の交代冬休休暇等
 タル拵機員ノ手ノシテ 第六潜水艇艦隊 斯松園軍部ヲ 分解シ各
 耐履検査ノ其必要ヲ 修理調整ヲ加ヘ 結合上運轉試験ヲ 施行シタル
 其成績検査前、此ノ甚ク良好ナリシ

斯外ニ 大休等ヲ 艦員ノ手ノシテ 四潜ノ 實地ノ 検査ノ 結果
 基礎ノ 甚ク 満足ノ 耐力 充足ナリ

艦會
8-6

PM 28 FEB 1939
XII XI X IX VIII VII VI V IV III II I

加之當業員が當事業より得たる知識と自信力とは後來帝國振興
 ノ取扱より利スル処多キハ勿論尚ホ又他艇ノ参考トスルニ足ルモノニシテ現
 在實施中ニ在ル第一潜水艇隊ノ先衝機關耐壓検査ノ要具要領
 亦之ニ準シテアルモノナリ

右ニ付キ別冊附機關官氣機関中尉ノ報告ヲ徴シ之ヲ報告ス

(別紙添付)

(終)

第六潜水艇附 海軍機中尉 泉富三郎

第六潜水艇在素林機検査報告

當素林機へ振付以來素ク異常ヲ發動第爆発室ノ水壓試驗施行シ
且下無ク長日月間運轉繼續シ來ルニ結果機軸取付基礎ヲ始メトシ各
部固定ノ母螺帽釘ニ弛緩ヲ生シ或ハ局部ノ腐蝕ヲ來シ運轉中ハ機
軸ノ振動増加シ操縦者ヲシテ常ニ心勞急念ノ軀ニ及ルモノ大ナリキ
依テ今回ニ於ケル冬ニ休暇ヲ利用シ材料品ノシム自ラ工廠ヨリ供給スルト
定メテ機軸ヲ使用シ大検査ヲ施行セリ

各機軸第及爆発室水圧検査ノ治方針ノ如シ

(第一) 検査準備トシテ左ノ事ヲ施セリ

一、主動部、各曲狀坑覆取外、吸錫系、令接合棒及発動筒蓋
取外、母形、收、

二、附屬部揮發器、発動筒、瓦斯管、及発動筒水取外板
取外、母形、收、

三、発動筒水取外板、製作

(其二) 検査方法、如、

鉄条、両内板、以テ、発動筒、両端、ヲ、澁、ニ、筒、内、部、ヲ、筒、内、全
長、余、ニ、長、標、針、一本、及、母、標、十、六、個、ヲ、以、テ、注、入、板、ヲ、筒、内、両、端、
閉、塞、水、密、ヲ、ラ、タ、水、密、機、機、ハ、馬、車、ヲ、低、シ、使、用、ス、爆、発、室、ハ、排
出、余、餘、入、余、ヲ、緊、締、シ、發、火、器、取、付、孔、ヲ、閉、塞、シ、各、水、密、ヲ、ラ、タ、
筒、内、新、出、入、ロ、ン、利、シ、テ、室、及、筒、ノ、通、セ、シ、錫、ノ、上、端、覆、板、取、水

圧管ヲ導キ中ノ極細管ヲ以テ筒室ニ時々水圧試験ヲ施行ス

(第三) 検査成績等

一、第一発動機

(甲午十月五日試験実施)

前記ノ方向ニ水圧力三五。機ノ各部漏洩ヲ認め

二、第二発動機

(甲午十月五日試験実施)

全右

三、第三発動機

(甲午十月五日試験実施)

圧力三五。機ノ各部ニ時々水圧力接合部ノ水量

ノ噴出ヲ認め、各部ノ實際運動中高压ニ至ルニ接

触セ、各部ノ運動上ノ異常現象ヲ認め

四、第四発動機

(全)

右)

水圧力百磅に至り際下縁より長井の一呎に亘り亀裂傷より噴水
し始り尚水圧力ヲ加へると益々甚クシテ遂に百五十磅以上の上昇
セラント能ハサレキ

按てん、活龜形集傳ハ明治三十九年九月二十七日暹羅中節節道

勤ノ多ク生じらん也ノコトヲ甚ク時令後使用セムハ或ハ龜形集傳増

大ヲ顧慮レセシカキ防信トシテ二条ノハムトテ固結シ本白ニ至ん

マテ何事異收ナリ使用レ来ラレシトテ今海濱ノ物々細ハテ探スルコ

トモ増大ノ形跡ヲ認メ且ツ活部ハ死部ニ直傷スル部ニアラサレハ猶

此法使用せんハ美支ナキト認定ス

五、某院動物園 (甲午年三月十日法蘭西實施)

水圧力三百五十磅に至り各部異状ナリ

六、第六果高尾南

今 右

七、各果動筋蓋水圧試験

(四十年十月五日試験実施)

各果動筋蓋水圧試験ヲ施行シ見、圧力三百キログラムニ果實ハ
認め結果良好ナリ

八、各果動筋蓋水圧試験

(四十年十月四日) 試験実施

各果動筋蓋水圧外取付クテ後奇兩排気管ニ通ス
ル余ヲ閉鎖シテ動脚筒ヲ水圧ヲ加ルニ三十キログラムニ至リ奇

異状ナリ結果良好ナリ

九、各果動筋蓋後部排気管

(四十年十月三日) 試験実施

連動中水ヲ通過セシ海水ハ其一新熱ヤリ遠化シテ排気

管ノ外圍ヲ圓流シテ消者若由ニ注射スル事ヲ抑ス管接
 合部不良ニ由リ水漏れシテ管中ノ噴出シ方ニ運轉中爆
 發室ニ入り共「サクレヨレ」ストロークノ時管中ノ水以テ在室林ヲ
 斬入シテ少シクモ結果運轉中停止シ或ハ起動スルヲ能
 弁ルコト疑々トシテ今同機各管合部取外シ各接合部
 ヲ檢スルニ備帶高熱シテ取外シ認ム能ハスルアリ
 且ツ接合部ハ毎半年スレシテ凹部ヲ認ム係ヲ摺合セ且毎
 年トシテ管内ノ水路トノ隔絶ヲ完全ニシテ取付ク

十番輪軸承

(四十二年一月十日實施)

各重要取外シ摺合調整ヲ行フ

十一、エンジンフレーム

(四十二年一月十日) 今年一月十日迄

各取付用母機ヲ調整ス

去各吸錐及接合棒取直し調整
(四三年一月廿三日)

各吸錐及接合棒ヲ檢スル
第一、六吸錐金屬腐蝕帶現ハ各

一個宛彈力減少付
彈簧用ト接合棒他ハ異状ナキ
以テ彈簧ト接合棒

ス

去在系林瓦斯管壁空乏管
棒差器、柔大器、排気弁、給入弁

何レモ調整ス取付ク

(第四)

試運転

(四三年一月十八日)

一、第一回本日は試運転ヲ施行シタル後、却三管ハ爆音不良有リ及シ

而却三管ハ温度過昇有リ、冷却用海水ヲ増給スルニ及シ

之檢却セシムル能ハス、若柳氣管備携リ、差煙セシムル中、板機運轉

ヲ停止スルヲ電傷極キ母航帰リ極機諸部ヲ換ス

二 第三回

(四十五年一月二十日)

出航試運航ヲ施行シ且運航状況良好トス時々自停セシトセ
ト電傷極キ傷ヲ母航帰リ排出集給入集炎火器分
解掃除調整ス

三 第三回

(四十五年一月二十日)

出航試運航施行スル前回比シ良好トハ認め難ハス

四 第四回

(四十五年一月二十日)

出航試運航施行スル運航状況良好トス時々自停スル運
航モ電傷キ弁ル至ル迄各部ヲ検査スル消音器内ニ修理
中不注意ノ者ヲ疎留シテアリ且至席ノ抽気吸筒吸口ニ

充塞シ抽多呼吸筒ノ効力ヲ多金並ニ要カシメタルヲ奏見セリ
係テ電機機ニヨリ母形ノ掃リ糸屑ヲ排除ス

九、第五回

(四十五年五月二十五日)

出飛込運轉施行ニ各箇事ヲ斯様ニ改良好シキ抽多
呼吸筒ニ於テ備作トモ高ニ遺憾トモ処ナリ極機修理前
ニ比シテ運轉ノ振動ヲ減シ回轉速度モ増加シテ毎分
二六二ニ達セリ

(第五) 修理前ニ比シテ第五回試運轉ニ至ルマデノ極機ノ備作ニ

付テ進歩セシメタル要點ヲ挙クハ左如シ

- 一、極機ノ備作ヲ確實ニシテ奏傳ヲ容易ナラシメヨコト
- 二、極機ノ振動ヲ減シタルコト

三、回転速度ヲ増加シタルコト

四、従来の如ク故障ノ大分ハ排気缶ノ回転及排気管内ノ

海水ノ漏洩ニアルヲ確認シタル結果故障ヲ生ズルニ至ラズ

スルニ容易ナラシメタルコト

五、各部水圧試験ノ結果其耐力完全ナルヲ確認シ之レガ

標榜上ニ於テ自信力ヲ收得せんコト

(終)

Handwritten notes on the right margin.

符號第二八五號、二

昭和二年三月六日

陸軍大臣男爵齋藤實

公試運轉成績表
一水雷艇第六十号公試運轉成績表

右准達ス

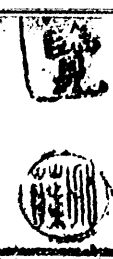
別圖表葉添

終

陸軍部 海軍部 各班
福田 田中 山本 坂井 佐藤 鈴木 高橋 橋本 石川 木村 伊藤 渡辺 山崎 斎藤 藤田 森田 山本 坂井 佐藤 鈴木 高橋 橋本 石川 木村 伊藤 渡辺 山崎 斎藤 藤田 森田

4/23 陸軍部

軍務局



1163

三
九
一〇

陸軍部 今官印

出



1163

三
三
台
10

頌表進達、件
公試運轉成績表 走通

終

海

軍
三

竹敷
港部
印

并
出
計
上
及

第四部
数要

在修
改
中

1164



163

三

10

Handwritten vertical text in cursive style, likely a date or reference number.

Handwritten vertical text in cursive style, possibly a name or title.

Handwritten vertical text in cursive style, possibly a name or title.

頌表進達
公試運轉成績表
走通

終

海

Handwritten vertical text on the left margin.

Handwritten vertical text in cursive style, likely a detailed note or signature.

1165



163

三

10

1102

Vertical handwritten text in cursive style, possibly a list or report.

績表
運轉成績表
走通

添
終

海
Vertical text on the left margin.



本局、去年の並流から改定、積算後
熱面積は当然以前より減少ス又
此表に本年積算表を示す如く、
し居るに、積算表及び運送
本局、本年、積算表及び運送
供
本局、本年、積算表及び運送

1166

三月十七日

軍務局
會計課
第三部
第四部

艦政本部

手記

佐廠第

號 一二二

明治四十二年三月十五日

海軍大臣男爵齋藤實殿

工事着手及終了豫定、件

軍艦最上公試運轉後、開放検査三月八日

着手四月十日終了、豫定

右報告ス

(終)

參謀長

機關長

參謀

佐鎮副官

參謀

三月十五日

海軍大臣
齋藤實
印

海軍大臣
齋藤實
印

海

軍

大子 壺

極秘

臨見

三月十九日

軍務局

艦政本部

第四部 第三課 會計課

軍令部

第一二〇〇

參謀長 水原

副官

參謀 待

明治四十二年三月十六日

横須賀海軍工廠長 和田賢助

横須賀鎮守府司令長官 男爵 上村彦之丞

局員

潜水艇試運轉成績報告一件

第八第九潜水艇試運轉成績別冊一括

附記

昨年十二月兩潜水艇浮出以來整備委員

船隻整備関係業務ヲ能ク秩序整備豫定

各各部隊後助潜水艇乗員ト共ニ協同

一致熱心整備ニ從事シタル結果豫定期
内ニ良好ノ効果ヲ收メタルハ委員並ニ能負
ノ熱心精勵ニ因ルモノト認メテ矣

右報告ス

(了)

写

横濱機密茅三辨

明治四十二年三月十三日

潜水艇整備委員海軍技師能井恭介

全 海軍造幣寮本原耿介

全 海軍機関部岡崎建吉

全 海軍機関部田中龍男

全 海軍中佐松村純一

横須賀海軍工廠長和田賢助殿

別紙第八号九潜水艇試運転成績

海軍

右
報
告
ス

(別紙九葉添)

三
五

(終)

1171

第八潜水艇試運轉成績報告

試運轉條項

(一)瓦素林機關全カヲ以テスル速力試験

マイルポスト間ニ回航走其平均速力ト回轉數ヲ測ルコト

(二)瓦素林機關全カヲ以テスル一時間航績試験

(註)瓦素林機關全カトハ機關廻轉四百以上ナルヲ要ス

(三)電働機ヲ以テスル速力試験

マイルポスト間ニ回航走其平均速力ト回轉數ヲ測ルコト

(四)電働機ヲ以テスル三十分間航績試験

(註)電働機ヲ以テスル速力及航績試験ニ六百ワットヲ放電スルヲ要ス

(五)潜航試験

港外ニ於テ適宜ノ時間潜航ヲ試シ潜航潜入及浮出ニ要スル時間ヲ験ス

陸

軍

(六) 水雷發射機ノ實試

實際魚形水雷ヲ發射シ發射機ノ如何ヲ試ム

條項第一 瓦素林機關全カヲ學スル速力試驗

マイルホストノ間ニ面航走其平均速カト回轉數ヲ測ルコト

(一) 二月二十日 晴天北風吹海上平穩

午前八時四十五分繫索ヲ解キ電力出艇次瓦素林機關使用小艇沖ヲ進シ九時三十分ヨリ十六氣筒全カ航走富岡南者標柱間ヲ往復シ十時五十分迄ヲ終リ引續キ全カ一時

間航走後將十五分帰港

回数	潮流	風向	距離	航走時間	平均速力	回轉數
一	逆	逆カ	一哩	五分四秒五	一〇・四八〇	三六六
二	順	順カ	一哩	五分一秒	一一・九六〇	三七四

平均速カ十一哩二二〇 平均回轉數五六七五

(名古屋海軍工廠)

各「タンシ」空虛前部「カン」ジヤ、止注水艇、傾斜二度半吃水共十呎十寸

(再試験ヲ行フ)

(2) 二月廿六日 晴天北風微吹海上平穩

午前八時五十分出帆九時十五分今日リ全カ官南南方標航路航走速力試験ヲ行ヒ次ヲ

全カ一時間航走、後午前中時十分港港入船渠良好

回数	潮流	風	航路	航路時間	速力	平均速力
一	順	順	一浪	四〇分	一六・七六	四〇・八二
二	逆	逆	一浪	五十分	一一・八〇	四〇・一一

平均速力一・二二四。平均航路時間四〇分六五

各「タンシ」空虛、艇、傾斜二度半航。吃水中共十・一呎

「ハイドロプレーン」水上「ガ」ド「ラ」陸キ「テ」施行セリ

條項第二 瓦素林機關全カ「リ」以「テ」一時間航走試験

(註、瓦素林機關全カ「ト」機關、廻轉四百以上ナルヲ要ス)

(1) 二月二十三日 天候晴 北風數吹 海上平穩

午前八時四十分出帆 小紫沖より速力試験 後十時三十分より北航三十分後南下

十一時五分試験を終り 午後一時十五分電力帰港ス 結果満足ナリ 又再試験ヲ行

フニ決ス

一時間総回転数 二三四八八 一時間平均 五九一四

瓦素林油消費高 一時間 五五〇キ

(2) 二月二十五日 天候半晴 北風數吹 海上和

午前八時甲分出帆 港口より噴水先着より増速し 南航約時一連し 後北航七二二

発火種ニ煤煙附着シ 二三汽笛機要良好ナリ 又後期由速力降下試験ヲ中止シ

午後零時十九分帰港

(3) 二月廿六日 天候快晴 北方至強風 海上平穩

(名古屋海軍工廠)

午前八時五分の間に富岡南方より午後十二時五分まで十六汽笛全方試験を実施し、

二台の終了結果良好(此二時間内多量試験ヲ施行)土時十五分帰港

一時間総回數ニ三九二四、一時間平均五九八七

蒸氣機消費量 一時間 三石五斗

吃水中央部十一呎 艇ノ傾斜ニ度半強

パイロロプレーンノ水上コカノ事ヲ除ク

本試験中常ニ毎分四百以上ノ回數ヲ示セシモノ燃火機蒸熱ノ為メ全間除外セル

ヲ以テ平均回數ニ於テ毎分一、三ヲ不足ヲ生セリ

條項第三 電機機ヲ以テスル遠方試験

「マイルポスト間ニ四航走其平均速カト回數ヲ測ル」

二月廿二日 天候晴 北風微強 海上平穩

午前八時四十五分出帆 蒸氣機機軸等ノ調整ノ後十二時四十分ヨリ六時、マシヤアニ放電

富岡南方マイルポスト間ヲ二回航走其平均速カト回數ヲ測ル、午後一時十五分帰港結果良好

電

	回航	潮流	風向	距離	航走時間	速力	平均回航数
一	逆	逆	一浪	七〇二 <small>分</small>	八浪一六五	二八四・六	
二	順	順	一浪	六分四五 <small>分</small>	八浪一八九	二八八・六	

平均速力 八・五二六 平均回航数 二八六・六

各コタンク空庫 前部コタンクシヤケヨシ注以概傾斜三度半 吃水中英三ノ十噸十時

條項第四 電動機ヲ以テスル三ノ分間航續試驗

前項速力試驗ト同時ニ施行セザルコトニテ故電航走結果良好

條項第五 潛航試驗

港外ニ於テ適宜ノ時間潛航ヲ試シ潜航進入及浮出ニ要スル時間ヲ試シ

(1) 二月廿三日 天候晴 北風微吹 海上如

午前八時三十分出帆小笠原ヲ以テ潜航試驗ノ上十時三十分潜航浮上第一航路ニ到

(名古屋海軍工廠)

外準備(全五三分第一配置)艇内準備(各「メインタンク」に前部「ツリミンダタンク」
 第一「ガソリンポンプ」センチングタンク)満水第一「第二」オーキジリーヤリータンクに
 淡水土時四十六分「トリ」トウ終り(五十三分)水面航走ヲナシ(五十分)艇ヲ命ジ「ハイ
 ドロプレーン」ヲ沈ミ舵十度トナサシメタルニ水面航走中ノ惰力ニヨリテ艇首ノ降下容
 易ナラザルヨリ沈ミ舵十五度ヲ命シタルニ潜地ニ付タル者速ニ沈ミ舵十度ヲ取リタル為メ
 急激ニ艇ヲ傾ケ俯角八度ニ及ヒ直チニ潜入深度三十呎ニ達シ潜望鏡等ヨリ沈セルヲ以
 テ「ハイドロプレーン」ヲ直チニ浮舵一杯ニ命シ第一「メインタンク」ヲ「ブローアウト」ト爲
 艇停止潜航ヲ止メ順次他「タンク」ヲ排水シ潜航準備ヲ元ニ復シキ後零時十六分ニテ
 終リ電力帰港ス(再試験ヲ行フ)

本試験ニ於テ宋莫モホゾ作業ニ習熟セズ故テ時間ノ如何ヲ問ザリシモ潜航ノ使用ニ熟練
 ナラズ急激潜入セシメ潜水ノ箇所アリシヲ以テ中止シタリ

(2) 二月廿四日 晴天 北風微吹 海上平穏

海
 軍

午前九時、出帆港外に潜航準備第一配置次を第二配置、全三十分トウヒ成リ
 (オインソシム) 第一ガソリンコンパーセーチングタンクの前部、ソリミシソシムに電燈
 (満水) 直々ニ航進ヲ起シ次テ潜航深度十五呎ヲ命ズ、ハイドロプレーに潜航共十五
 度以内ノ角度ヲ以テ航ノ傾斜ハ殆ド感セズ潜入時最大ナル時モ二度ヲ越エズ約二
 分ニテ測定深度ニ達シ殆ド「ワイブンキール」ニ潜航ヲ持續シ早静ナル航走ヲ
 シ三十七分浮出ヲ命シ一分ニテ浮上(傾斜二度ヲ)停止各「タンク」ラ水ニ潜航準備ヲ
 元ニ復シ十時五十分迄ソ終リ直々ニ帰港ス結果頗ル良好

條項第六 水雷發射機ノ實試

實験艇形水雷ヲ發射シ發射機ノ如何ヲ試ム

(一) 八月十七日繫留地於テ各發射管別箇ニ「ジ」式水雷(ジミ)ヲ發射シ
 氣壓三十磅トシテ電氣發射ヲ行フ結果頗ル良好 發射管長サ約三
 五磅

(名古屋陸軍用船)

(2)二月廿三日午前八時三十五分出艇九時十五分小柴沖に於て水雷ヲ右機軸射管ニ装

填(二号式水雷百五十氣壓裝氣、距離車一千 水深表 ロッキング六十米突。イニシ

アル)小柴沖南北ニ設置セル標的ニ對シ東方一千米突ニ設ケタル航路浮標

ニ向シ五百ヤンペアル水面既(速力約七涅半)走ヲナシ十時七分發射用意次テ電

氣發射ス發射機結果良好水雷直進シ標的ニ命中ス發射氣壓三十五磅、

發射管最高壓力三十磅、コッパイヤリングシテ機氣壓十磅

海澄航試験ヲ行ヒ帰港

海軍

第九潜水艇試運轉成績報告

試運轉條項

(一) 瓦数機機間全カラ以テスル速力試験

「マイルポスト」間ニ回航走其平均速力ト回轉数ヲ測ル

(二) 瓦数機機間全カラ以テスル一時間航績試験

註) 瓦数機機間全カトハ機間、回轉四百以上ナルヲ要ス

(三) 電機機ヲ以テスル速力試験

「マイルポスト」間ニ回航走其平均速力ト回轉数ヲ測ル

(四) 電機機ヲ以テスル三十分間航績試験

註) 電機機ヲ以テスル速力及航績試験ニハ六百ワット以上ノ電氣ヲ要ス

(五) 潜航試験

潜航中ノ運轉時間潜航ヲ試シ得航潜入及浮出ニ要スル時間ヲ測ル

毎頁

(水) 水雷艇の運用

射撃機如何ヲ試ム

成績

第一号水雷艇全カヲ以テスル速力試験

五月六日 曇天 無風 海上 模様静

午前九時等入方出艇洗口ヨリ海素林機関ヲ使用シ小笠原沖ニ至リ富岡南方

マイルホスト間ニ於テ試験ヲ施行ス十二時ニ各機関ヲ停止時八分終了

回数	潮流	風向風力	距離	航走時間	平均速力	平均回転数
一	噴	ナシ	一哩	四分四秒	一六・四七	四〇六五
二	逆	ナシ	一哩	四分五秒	一六・五九	四〇七セ

平均速力一六・三九五 平均回転数四〇四六

前部吃水八呎五吋 後部吃水一四呎一吋

コイルドラムレーンガードヲ取除ク

海軍省

第二瓦素林機關全力ヲ以テスル一時間航統試験

三月六日 天候曇 無風 海上ノ模様静

午前九時半分出港港ヨリ瓦素林機關使用ノ燃料並ニ官商兩機機關於ニ備置品上向
時迄ヲ施行スル時八分試験開始十二時半八分終了其成績九ノ四シ

試験開始ヨリ十五分至三十分回轉數	六、〇〇〇	平均	四〇〇〇
自十五分 至三十分 回轉數	五、九一六	令右	三、九四四
自三十分 至四十五分 回轉數	六、〇二〇	令右	四、〇八三
自四十五分 至一時 回轉數	六、〇四〇	令右	四、〇六七
一時間總計回轉數	二三、九七六	令右	三、九七六

瓦素林一時間消費高 約三。四俵

毎分回轉數、四ノ不足ヲ生ゼレハ取扱不慣ノ爲メ自三十分至四十五分ニ於テ空機停止ノ通
量ヲ失ヒタルニヨル機關常ニ四百回轉以上ヲ發生シ得ルモノト認ム

前部吃水八呎五吋 後部吃水一四呎一〇吋

第五、電動機ヲ以テスル速度力試験

三月六日、機項第一、第二試験終結後同一場所ヲ施行ス主電動機常線抵抗故障ノ為メ取止メ

三月九日、更に施行するに一時三分試験開始一時三十二分終了

回数	潮流	風力	距離	航走時間	速度	平均回転数
第一	順	ナレ	一里	六分七秒五	九、五四	二九三、四
第二	逆	ナレ	一里	六分八秒	八、五二	二八七、四

平均速度力九、〇七五 平均回転数二九〇四

前部吃水八呎七吋 後部吃水一三呎四吋

「ハイドロプレーニング」ヲ防セズ

第四、電動機及スルモーター全閉試験

機項第三試験ノ全閉施行ニ際シ五分試験開始一時三十分終了

三月六日、主電動機ノ全閉試験ニ際シ五分試験開始一時三十分終了

(名古屋鉄道)

第五 潜航試驗

五月九日 天候曇 風無海上静 施行場所小笠原

午前十時潜航準備第一航艦 十時十四分潜航準備第二航艦ニ移リ

十時十七分第一第二第四潜水艇ノ浮上第一潜水艇約三十分満水

第二第四潜水艇ノ浮上トコソノ不異常ノ為ノ正確ナル時間ヲ測定ス能ハズ十

時五分第一第二潜水艇ノ浮上トコソノ不異常ノ為ノ正確ナル時間ヲ測定ス能ハズ十

分ツリトコソノ不異常ノ為ノ正確ナル時間ヲ測定ス能ハズ十

分ツリトコソノ不異常ノ為ノ正確ナル時間ヲ測定ス能ハズ十

午前十一時三十分撤還航行

十一時三十分潜航十五分 令より徐々潜航 十一時三十分令地底ノ深度ニ

至リ殆んど左右前後ノ傾斜無ク航行ス 十一時三十分令浮上トコソノ不異常

令ニテ浮上停止第六潜水艇ノ浮上トコソノ不異常ノ為ノ正確ナル時間ヲ測定ス能ハズ十

潜航準備ノ元ニ復テ結果良好

毎 頁

某六火雷発射機ノ實試

(一) 五月七日 駐米菊ノ尾レコダミ山火雷発射試験ヲ施行ス(四一五)号火雷

ヲ使用ス右発射機共異状ナレ但シ電気発火機異常ニ故障アリ遺テ

ニ修理復旧

(二) 五月九日午前九時三十分小銃沖ニテ施行機ノ標的ノ向ヒ五連発ヤリ

火面航走中九機発射機ヨリ発射ス「フワイヤリングタン」は能力三十

五機射機ニ異状ナレ尚ホ発射成績別表

潜水艇航行成績表

年月日	航行回数	航路	航向	水深	潜航時間	潜航深度	潜航速度	潜航距離	潜航時間	潜航距離	潜航速度	潜航距離	潜航時間	潜航距離	潜航速度	潜航距離	潜航時間	潜航距離	潜航速度	潜航距離		潜航時間	潜航距離	
																				往	返			
四三九	一	分速	回定	七五	十	下	空	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	往	返	四	八三八
潜水艇航行成績表																								
天候	水深	潜航時間	潜航深度	潜航速度	潜航距離	潜水艇航行成績表																		
晴	〇	〇	〇	〇	〇	潜水艇航行成績表																		

49

軍務局

會計

主第四部

第三部

三月二十三日迄

加

代

佐廠第一

號

一三九

海四十五年三月二十日

參謀長

機關長

佐鎮副官

參謀

佐鎮副官
付三月廿二日

海軍大臣男爵齋藤

實殿

修理工事竣工件

逐艦暮三日月機関修理工事三月二十

日竣工
告不

高員

印

小林

田中

終

田中

田中

陸世保
海軍互
廠長印

海

軍

1188

四
18-29

解式

竹葉第三四八號 三

明治四十二年三月二十二日

竹葉第三四八號

竹葉第三四八號
今官印

海軍大臣男爵齋藤實

艦政本部

第四部
第三課

軍務局

部 24

公試運轉成績表進奉件
驅逐艦卷云公試運轉成績表 壹用

別紙二葉添

局員

第一課
第二課
第三課

海軍省

海軍省

海軍省

1189

大臣

供覧

西務局

軍部

試

四月二日

日午後一時五分

海軍省

發信者

受信者 大臣

佐鎮長友

電報譯

須磨公試運転後調査ノ結果アズピト
ノ面積ヲ弘ガ給水温度ヲ高ムル装置
ヲナセバ好結果得ルニシテ見
認ノクシテ四月六日公試運転
行ス

郵部

郵部

郵部

郵部

郵部

郵部

郵部

各班

各班

各班

各班

各班

各班

各班

各班

1190

四

電 報 着 信 紙

局 着		局			發		受 信 人 所 居 名 氏
取 扱 者	受 信	付 受 午 後	付 受 午 後	第	報 局	報 局	
	分	分	分	日	號	號	名 氏 所 居 人 信 受
ス	ウ	4	ソ	ハ	ウ	ゴ	サ ロ
シ	サ	4	ソ	ハ	ウ	ゴ	
ラ	ラ	4	ソ	ハ	ウ	ゴ	
シ	ラ	4	ソ	ハ	ウ	ゴ	
テ	四	4	ソ	ハ	ウ	ゴ	
シ	ツ	4	ソ	ハ	ウ	ゴ	
ク	キ	4	ソ	ハ	ウ	ゴ	
シ	キ	4	ソ	ハ	ウ	ゴ	
シ	キ	4	ソ	ハ	ウ	ゴ	
シ	キ	4	ソ	ハ	ウ	ゴ	
シ	キ	4	ソ	ハ	ウ	ゴ	

1191

機密

海軍局長

艦政本部

第四部

第五部

會計課

第一班

昭和十四年四月九日

海軍大臣の男爵に宛てて

海軍大臣の男爵に宛てて

一、水雷艦隊の艦文月(艦隊)の試乗艦隊

一、水雷艦隊の艦文月(艦隊)の試乗艦隊

一、水雷艦隊の艦文月(艦隊)の試乗艦隊

一、水雷艦隊の艦文月(艦隊)の試乗艦隊

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍

供覽

第四部

七月十三日

軍務局

軍令部

副官

検査官

造船部長

機務部長

37

一、第...
右進達不...
公試運轉成績表進達件
四部

昭和十二年四月十六日
第...
海軍機務少佐小川英雄
槽...
海軍機務少佐小川英雄

機務部長

機務部

機務部

機務部

機務部

機務部

海軍

(終)

艦會 7-15

續受七月二日前八二九

1193

7-15

7-15

四...
公試運轉表
進達

參謀



留官

留官

二十一年四月十六日

第廿七號留艦公試運轉委員

海軍機関少佐 小川英雄



府司令長官男爵上村秀之丞殿

小林

由申

時

運轉成績表進達件

留艦公試運轉成績表 四部

終

續發七月二日前八二九

三

1267

艦會 7-15

7-15

1193

7-15

四十二年七月二日
公試運轉委員
進達

留官

1194

海軍

杉本

參謀長

機關

參謀

受付四月二十日

佐藤第一 一七五

佐藤別

四月二十日進

海軍大臣男爵齋藤實殿

海軍工廠長佐藤井

佐世保海軍工廠印

經政本部

第三部 第四部

會計課

軍艦最上

開放検査了、件
開放検査本日結了

(終)

軍務局

局員

關西

軍令部

三

第一班

四

田

五

田

六

七

海

軍

會

4-24

1195

供覽

艦政本部

第四部
第三部

軍務局

司令部

海軍大臣 藤田鳴鶴

明治四十二年四月二十二日

佐世保鎮守使司令官長官以

海軍少將藤井毅

海軍大臣男爵南條實啟

海軍艦艇須磨(新艦)試運轉成績表一通

進達
辨幣ニ基テ

馬車

第一班
第二班
第三班

郵便

軍務局
第 4 信

軍務局
第 4 信

艦隊本部

報

電

2/30
軍務局

20
28

局	着	發	名氏所居人信受
受借者 各班	受付 午後	第 4 信 局 報	受借者 各班
時間 午後	時間 午後	日 號	名氏所居人信受

定指	三	四	五	六	七	八	九	十
事記	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	ヘ	コ	ク
本日は陸軍省 に施行シ約十七海里迄 大佐	本日は陸軍省 に施行シ約十七海里迄 大佐	本日は陸軍省 に施行シ約十七海里迄 大佐	本日は陸軍省 に施行シ約十七海里迄 大佐	本日は陸軍省 に施行シ約十七海里迄 大佐	本日は陸軍省 に施行シ約十七海里迄 大佐	本日は陸軍省 に施行シ約十七海里迄 大佐	本日は陸軍省 に施行シ約十七海里迄 大佐	本日は陸軍省 に施行シ約十七海里迄 大佐
横領長	横領長	横領長	横領長	横領長	横領長	横領長	横領長	横領長

番着信	數紙	名氏所居人信發
第 4 信	第 4 信	第 4 信
第 4 十九號	第 4 十九號	第 4 十九號

印附日信着	第 4 信
-------	-------

1197

大臣 海

艦政本部

軍務局

第三部
第四部
會計課

軍令部

佐鎮機密第一五冊ノ一

明治四十二年六月九日

海軍大臣身野將藤原

二庫艦肥前旋回力試験成績表 志通

進達

別表 志通

司員

第三班
第二班
第一班



長官印
府司印
海軍大臣印

會 14
艦 6

1198

軍令部

軍務局

會計課

第三部

艦政本部

海軍

海軍大臣男爵齋藤實殿

佐保鎮守府司令長官男爵有馬新

明治四十二年七月六日

佐保鎮守府 二五番ノ一六

製圖室

一 駆逐艦巻雲旋回力試験成績表 吉通

右 進達不 別括一添

司員

第一班

海軍

1199

供覧

十月十三日

事務局長

艦政本部

第四部

第三部

會計課

司令部長

40.

事務局長

艇第二

明徳

工廠長

参謀長

機関官

参謀

副官

於長市

水雷艇鳴公試運轉先任各員大々幸四郎

修理改造公試運轉成績表提出件

局員

小林

吉松野崎

船

監 10

水雷艇鳴公試運轉成績表

四丹

別冊四冊添付

第三班
第二班
第一班

横領第一七三二號

有教坊

海

1200

司令部

軍務局

艦政本部

43

供覽

十月廿九日

公使館	工廠長	副官	[Seal]	昭和四年十月廿九日於橫須賀港	公使館長中野直枝	[Seal]	村長	[Seal]	公使館長中野直枝	[Seal]	公使館長中野直枝	別紙	[Seal]	[Seal]	各班
-----	-----	----	--------	----------------	----------	--------	----	--------	----------	--------	----------	----	--------	--------	----

Handwritten notes on the right side.

市川元八納

昭和四年十月廿九日

1201

航

寛



艦政本部

松本

第四部

第三部

軍務局

軍令部

46.

吳鎮守府第二十五三號

明治四十二年十一月十九日

吳鎮守府司令長官 男爵 山内萬壽治

平岡

海軍大臣 男爵 齋藤 實殿

第六十五十六號水雷艇修理公試運動成績表 港部

本達

別冊部係



小村

吉松

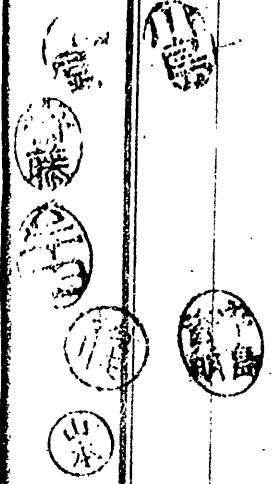
野崎

藤田

松岡

第一班	第二班	第三班	第四班	第五班	第六班	第七班	第八班	第九班	第十班	第十一班	第十二班	第十三班	第十四班	第十五班	第十六班	第十七班	第十八班	第十九班	第二十班	第二十一班	第二十二班	第二十三班	第二十四班	第二十五班	第二十六班	第二十七班	第二十八班	第二十九班	第三十班	第三十一班	第三十二班	第三十三班	第三十四班	第三十五班	第三十六班	第三十七班	第三十八班	第三十九班	第四十班	第四十一班	第四十二班	第四十三班	第四十四班	第四十五班	第四十六班	第四十七班	第四十八班	第四十九班	第五十班	第五十一班	第五十二班	第五十三班	第五十四班	第五十五班	第五十六班	第五十七班	第五十八班	第五十九班	第六十班	第六十一班	第六十二班	第六十三班	第六十四班	第六十五班	第六十六班	第六十七班	第六十八班	第六十九班	第七十班	第七十一班	第七十二班	第七十三班	第七十四班	第七十五班	第七十六班	第七十七班	第七十八班	第七十九班	第八十班	第八十一班	第八十二班	第八十三班	第八十四班	第八十五班	第八十六班	第八十七班	第八十八班	第八十九班	第九十班	第九十一班	第九十二班	第九十三班	第九十四班	第九十五班	第九十六班	第九十七班	第九十八班	第九十九班	第一百班
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------

第一班 第二班 第三班



海軍

四

12-1

11-29-3 1202

次官 濟

十二月十一日

艦政本部

第三部

會計課

事務局

海軍

參謀長

參謀

副官

製圖室

機関長

機関官

第五三五

昭和十二年十二月九日

軍艦周防旋回力試験先任委員
海軍大佐 中盛秀
横須賀鎮守府司令長官 男爵 瓜生 外吉 殿

一軍艦周防旋回力試験成績表

右提出

局長

第一班

海軍

會 12-18

1-6-5

1203

20